

DKNリサーチニュースレター

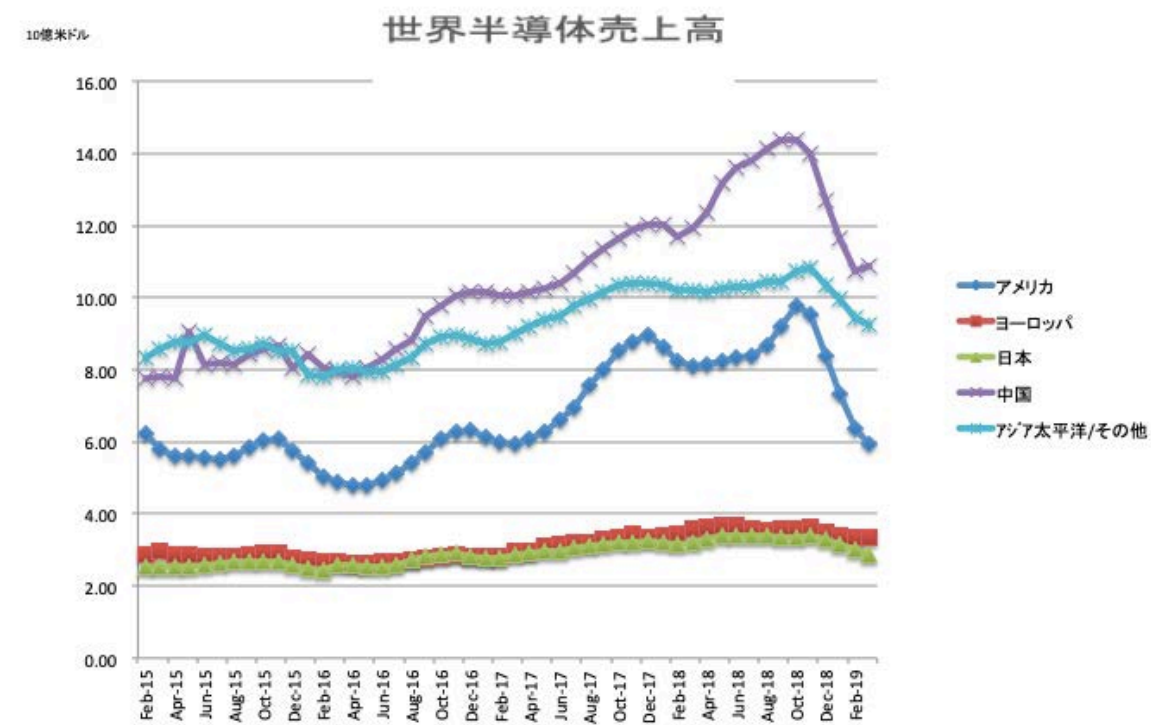
#1915、2019年6月2日（日本語版）
（エレクトロニクス実装の最新海外情報）

今週の話題

エレクトロニクス業界の低迷は底を打ったか？

今回のエレクトロニクス業界の低迷については腑に落ちない点がいくつかあります。

市場の急落は昨年（2018年）の12月に突然始まりました。それから3ヶ月間、世界の半導体製品の出荷、世界の電子部品の出荷、台湾のプリント基板業界の出荷、日本のプリント基板業界の出荷は減少しつづけてきました。それが、3月に入って、少し状況は変わってきています。



世界の半導体製品の出荷額の下落は、かなり緩やかになっています。ただし。地域別に分けると、中国の3月の出荷額は、わずかですが反発して増加に転じています。その他の地域は、多少下落率は小さくなっているとはいうものの、依然として減少傾向にあります。特に北米の減少率は際立っています。グラフに出てくる傾向からだけでは、この先のことは予測しにくい状況が続いているといっていよいでしょう。それでも、この先1～2ヶ月の動きを観察すれば、予測の確かさは、はるかに良くなるでしょう。

一方、台湾のプリント基板業界の出荷額は、3月から大きく反発に転じています。これは、旧正月休暇による季節要因の影響を差し引いても、プラス成長になります。今年の3月の出荷額は、前年同月比でプラス成長になっていますし、4月は成長幅が拡大しています。台湾の経営者は、かなり早い時期に、今回の低迷を予測しており、その対策を進めていたようです。日本のプリント基板業界の出荷額は、1月、2月、3月と少しずつ増加していますが、前年同月比では二桁減少が続いており、減少率は広がっているかのように見えます。

一見あまり関係がないように見える景気動向も、地域別、カテゴリ別に分けてみると、その因果関係がみえてきます。ある程度先の予測も可能です。少なくとも自分のテリトリーに関して見てみれば、一般メディアや市場アナリストなる人たちよりは、たしかな予測ができます。一般の会社員ならともかく、まがりなりにも経営者やマネージャーの肩書きを持っているような人々は、自分なりの情報收拾ソースを持ち、分析能力を備えておくべきでしょう。

メディアは、米中の貿易摩擦による景気低迷を懸念していますが、実態経済、特にエレクトロニクス業界では、かなりフェイズがズレたところで、経済が動いているのです。むしろ、自分が関わっている市場へのアクセスから得られる情報の方が信頼できます。

DKNリサーチ、沼倉研史（マネージング・ディレクター）

今週のヘッドライン 2019年6月2日

1. TPCA（台湾のプリント基板業界団体）5／15
4月における台湾のプリント基板産業の出荷額は478、29億台湾ドルで、前月比3.8%増、前年同月比で5.4%増。フレキシブル基板が前年同月比20.9%増で大幅改善。
2. DEGITIMES Research（台湾の市場調査会社）5／16
4月におけるノートブックPCメーカートップ5社の出荷は、前月比で14%の減少。HP社は40%の減少。
3. University of California, San Diego School（米国）5／21
フレキシブルでウェアラブルな、加熱、冷却デバイスを開発。絆創膏のように肌に貼り付けることが可能。
4. Huawei（中国のエレクトロニクス大手）5／23
Huaweiは、米国の自由貿易に対する圧力の犠牲者になっていると表明。
5. University of California, San Diego School（米国）5／23
エラストマーをベースにして、三次元に伸縮するストレッチャブル印刷回路を開発。導体層は4層、ビアホール接続。無線回路を実現。

6. Intel (米国の半導体メーカー大手) 5 / 28
スマートフォンのような民生用電子機器に使われるBGA接続の、機械的な衝撃に対する耐久性について評価。
7. LCOA (米国の基板材料メーカー) 5 / 28
多層の硬質基板やリジッド・フレックスのドリリングの品質を向上するための、新しいコンフォーマルバックアップ材料を開発。
8. YINCAE Advanced Materials (米国エンジニアリング会社) 5 / 28
LGA(Land Grid Array)パッケージの修理を容易にするアンダーフィル材料を開発。室温での処理が可能。
9. Chalmers University of Technology (スウェーデン) 5 / 28
表面に銀をコーティングしたプラスチック微粒子を導体として使った導電性接着剤を実用化。
10. IDC (米国の市場調査会社) 5 / 23
2019年における世界のCellular Connectivityの出荷は、前年比45.4%増の5110万台になると予測。2023年には7630万台に成長。5年間の平均16.8%/年の成長率。
11. ITM Consulting (米国のコンサルティング会社) 5 / 24
多層リジッド・フレックスのリフローはんだ付けプロセスについて現実的なソリューションを紹介。

(注) このヘッドライン・ニュース・レターは速報性を重視するために、若干の誤訳や数字の変換に誤りがある場合もございます。ご了承下さい。

DKNリサーチ
栄泰産業株式会社

DKNリサーチのイベントスケジュール

- * 6月28日、技術セミナー「フレキシブル・デバイスにおける材料・加工の現在－医療・ヘルスケアを中心にウェアラブル用途を目指す－」、加工技術研究会、東京、北トピア、<http://www.ctiweb.co.jp/seminar/dkn2019/index.html>
- * 3月26、27日技術セミナー「フレキシブルエレクトロニクス最前線、応用市場の現状と将来、材料・生産技術の最新動向」工業技術研究院、台湾新竹市

最近のDKNリサーチの論文、出版物

* 「デザイン革命、見せる魅せる透明フレキシブル基板」沼倉研史、JPCA NEWS, NO. 591, 2017年12月

* 「ウェアラブル時代に向けての新しい加工技術」沼倉研史、コンバーテック、2018年6月号、加工技術研究会

* 「耐熱性透明フレキシブル基板の材料と加工技術」沼倉研史／溝口昌範、エレクトロニクス実装技術、2018年6月号、

下記URLを開けてみてください。最近のものの一覧をみることができます。コピーライトの問題がないものは全文を閲覧することもできます。

<http://www.dknresearchllc.com/DKNRArchive/Newsletter/Newsletter.html>

<http://www.dknresearchllc.com/DKNRArchive/Articles/Articles.html>